

NPO 法人カローレ・学童クラブ保育指針

1 はじめに

学童保育は、親の労働を保障し、子ども達が放課後を安全に豊かに過ごすための「生活の場」「第二の家庭」です。

学校から「ただいまー」と元気に帰ってくる子ども達を「おかえりー」と迎え、その放課後の生活の内容をつくっているのが指導員です。保育内容の基本は安全に保育をすることですが、子ども達にどんな放課後を過ごしてほしいのか…どんな子どもに育てほしいのか…などを考えるにつけ、もっとも成長段階にある子ども時代を豊かに過ごしてほしい！豊かな放課後を過ごしてほしいと指導員は考えています。

また、学童保育は1年生から6年生までの子ども達が一緒に生活している異年齢集団の場でもあり、子ども同士の育ち合いの場でもあります。

指導員は、子ども達一人ひとりの成長段階を把握しながら、対応し、6年間を通しての様々な体験・経験をする中で、「自分のことが自分ででき」、「子ども自身が考え」、「行動し」、「自分の行動に責任がもてる」ように、そんな子ども達に育てほしいと願っています。そして、6年間というスタンスの中で、継続した日々の生活を通して、経験・体験を大切にしながら、次のような視点で、子ども達の育ちを見守っていきます。

2 日々継続した、異年齢集団の生活を通して

- 1) 毎日の生活の中で使ったものは片付ける、自分の物も人の物も大切にする子になってほしいと思います。
- 2) 誰でも受け入れられて、心を通わせ、自分の思いを伝えられ、友だちとけんかをしたり、仲良くしたり、相手の痛みや、気持ちがわかる子になってほしいと思います。
- 3) 仲間たちと一緒に決めたことは守るなど、自分たちで生活をつくっていく社会性を身につけてほしいと思います。
- 4) 自分の身は自分で守るなど、危険を察知できる能力を身につけてほしいと思います。
- 5) 人のことばをしっかりと聴き、自分のことばで自分の意見が言える子になってほしいと思います。

3 日々の遊びを通して

- 1) 自然の中での体験・経験を通して豊かな人間性を培ってほしいと思います。
- 2) 簡単に遊べることに慣れてしまった子ども達にテレビもゲームもないクラブでの生活を通して、根気を必要とする遊び（ベーごま、こま、けんだま、羽子板、かるた、百人一首など）なども楽しめるようになってほしいと思います。
- 3) どんな環境の中でも、子ども達のそれぞれの個性や想像力を生かし、自分のやりたいことを発見して遊べる子になってほしいと思います。
- 4) クラブの中だけで過ごしてほしいと思っている親の想いとは別に、思春期に差し掛かりつつある子どもたちは学童内だけの生活に満足できないことも自然なことと思います。6年間というスタンスを考えると上級生の子ども達の放課後は、学童保育を拠点にし、学童外の友達とも共に遊べるようになってほしいと思います。

4 保護者との関わりでは

クラブでの毎日の生活の中で、子どものありのままを見守り、見守っている中で、保護者に伝えるべき事を伝えていきます。

5 年間の行事について

行事を通して子ども達が生き生きし、成長する姿を見ていると行事は大切と実感します。子ども達の成長段階に合わせた企画をしていきます。

1) 低学年行事および3年生のお泊り会

上級生の仲間入りをするための準備の期間です。そのために、低学年行事を企画し、その中で1・2年生のリーダーとしての役割を持たせながらその事が果たせるよう援助します。また、3年生のお泊り会を企画し、その中で上級生キャンプへの期待につながる内容にしていきます。

2) 上級生サマーキャンプ

上級生サマーキャンプでは、子どもたちの育ちを考慮し、4年生には上級生としての自覚を持たせつつ、楽しかった、また来年も行きたいという気持ちを感じられるような内容にしたいと思います。また、5・6年生では、より主体的につくり上げる（自分のやりたいことを実現する）そして、もっとドキドキ・ワクワクできるような内容のキャンプに段階を踏んで取り組んでいきます。

3) 新春合同行事

日本ならではの文化・昔の遊びを大切に継承していくと共に、世代間の交流の場とします。また、子ども達一人ひとりが目標をもって難しいことにも挑戦できる機会とします。

4) NPO 法人カローレの行事

*カローレ大運動会

*キッズフェスタ（鶴ヶ島市産業祭り内）

日頃の保育で体験、経験を積んだ子どもたちの発表の場となるよう取り組んでいきます。

6 おわりに

学童保育での生活を通して得たことは、すぐに結果の出るものでもありません。子ども達がいずれ社会に出た時に、子ども達一人ひとりの心に原風景として残り、糧になってくれたらと思います。

また、小学校の6年間という時期は、心もからだももっとも成長するとても大切な時期として捉えています。生活の場である学童保育で過ごす放課後は子ども達の育ちの場でもあり、入室時から子ども達一人ひとりに寄り添い、理解しながら子ども達の成長段階に合わせて援助していきます。

しかし、指導員だけでは保護者の皆さんの大切なお子さんの子育てはできません。子ども達が豊かな子ども時代を過ごすためにも、保護者の皆さんの理解と協力が必要です。

保護者の皆さんと一緒に、学童保育という場での子育てを進めていきたいと思っております。